

『中小企業の秘策を一挙公開』

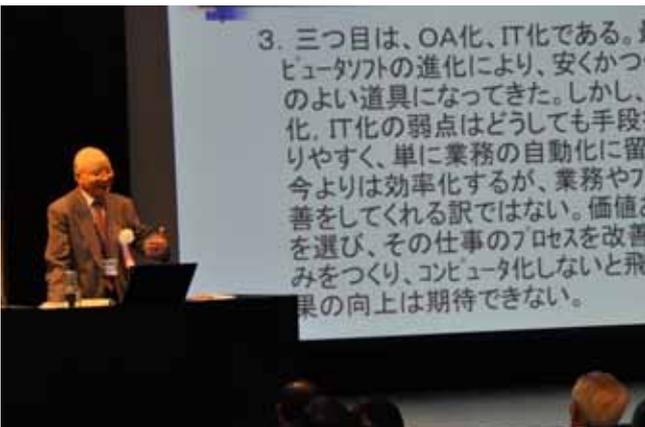
去る9月30日に大阪科学技術センターにおいて、恒例のATAC講演会を開催しました。



今回は特別講演として、ATACのお客様の株式会社三鈴の取締役社長鈴木雅也様をお招きし、「中国におけるビジネス展開の光と影」と題して、中国での永年にわたるご経験をお話し頂きました。

株式会社三鈴は、大成長を続ける一方で尖閣諸島問題など最近何かと問題の多い中国で、1992年の東莞を初めとして深圳、上海など6ヶ所に次々と新会社を立ち上げられています。鈴木社長のお話は中国では日常茶飯事という盗難、恐喝、不正行為、そして難しい労務問題と技術漏洩問題など、我々聞く者を釘づけにするほど興味深い話で始まりました。日本の10倍以上の大きな中国マーケットに支えられて株式会社三鈴は大躍進を遂げられたのですが、鈴木社長は『チャイナリスクは三鈴経営に致命的な大きなマイナス影響を与えておりません』、更に中国展開の成功の秘訣は『色眼鏡をかけず、リスクを恐れず、人的なネットワークを作ること』、そして『経営理念を「地球人ビジネスマンとして社会に貢献する事」としたことです』と締めくくられました。この鈴木社長の常に前向き姿勢は聞く者に少なからず大きな勇気と自信を与えたようでした。

ATACメンバーの講演は、前回の「5S」と「原価管理」の講演の続編です。



講演1の藪野による「経営に活かす5S」は事務間接部門での5Sの話です。一般に事務間接部門は営業、開発、製造部門に情報やサービスを提供して支援する役割を担っており「色々な担当の専門家の少人数の寄り集まり」ですから、製造部門と全く同じ内容の5Sをやろうとしても無理です。事務間接部門の5Sがともすれば「単なる美化運動」となりがちな原因はそこにあると云います。『実施する内容は生産現場と違っていても「5Sで人を育てて経営上の成果に結びつける」という基本的な考え方は同じである』ということを経営作業の効率化と改善についての色々な実施例を示しながら説明しました。

講演2の田頭による「真髓に迫る原価管理」で『原価は日々刻々と変化するものであり、1カ月に1度集約される原価を上がった、下がったと一喜一憂するのは意味が無く、これを原価管理と考えるのは大間違い』と云いま



す。また、『原価管理は高価なソフトは不要で「製造現場ではマシンチャージ」、「組立てや検査の現場ではマンチャージ」の一覧表を3カ月位かけて纏めることが重要で、この表から原価アップの課題が明確になり、今まで見えなかった色々な改善の切り口が明らかになってくる』とも云っています。本来の原価管理は『社長が原価要因の改善方針を決定しPDCAを回すことにあるべきで、「社長の将来を見据えた方針」につながるものであるべきだ』と実例を示しながら熱っぽく語りました。

5Sも原価管理も製造業種、規模、企業風土などによって内容はすべて異なるものです。経験豊かなATACメンバーはその企業の特徴にマッチした理想的な事務間接部門の5Sと原価管理を皆様と一緒に考え、提案しお手伝い致します。是非一度ATACにご相談してみてください。

講演会の後で開かれた相談会では、幾つかの相談に応じて後日の企業訪問の約束をし、また、交流会では企業同士、企業とATACの間で有意義な意見交換がなされました。

(池田雅記)